
木苺パニック！

上田サマナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

木苺パニック！

【Nコード】

N9945W

【作者名】

上田サマナー

【あらすじ】

兵庫の田舎に電車を撮りに来た伊藤ミナオと、ストロベリーパニックの月館千代が繰り広げる物語！！

出会いは播州赤穂！（前書き）

ストロベリーパニックが播州赤穂が舞台ではないので悪しからず？

出会は播州赤穂！

私、伊藤ミナオはどこにでもいる格好も普通の青年で20歳だ。

今、博多駅から新幹線で関西方面に向かっていった。

兵庫近郊の田舎で、たくさんの電車を撮るために！

「今日は、神戸近郊で沢山の電車を撮るぞ！なんせ相生駅や播州赤穂駅とかは生まれ変わる駅だからな！」

なに言ってるだけか…

なんだかんだで、、無事に新幹線は相生駅に着いた。

ここから始まる撮り鉄の旅！ミナオは心躍った！

「着いたぜ！相生駅！！！」

まず、相生駅を下り、在来切符を買い播州赤穂駅に向かった。

途中は223系に乗った。

「さすが西日本の車両！新快速とかいいねえ」

そして無事に播州赤穂駅に着いた。

「早速、飯にするか！」

まず、飯にするようだ。

「関西ゆうたら、やはりタコ焼きだよな。播州赤穂駅周辺にもあるだろう」

早速探し始めた。

なんとかタコ焼き屋を見つけ出し、タコ焼きを買った。

「買った方がいいが…、タコ焼き食う場所がないやん……」

播州赤穂駅から離れ、いろいろと探し回った。

しかしなかなか見当たらない…

すると公園の門みたいな入口があった

「なんだこんなところに森でおおわれた公園があったんか…よかった！公園で食べたかったから」

ミナ才は早速その門にタコ焼きと荷物を持って入っていった。

しかし、このことがミナ才を物語へと巻き込んでいく…！

百合（前書き）

第2話

播州赤穂に行ったことないが頑張って書きます???

百合

私は、タコ焼きとキャリーバックを持って、公園？森？の中をウロウロとしていた。

その時…

「あ、ベンチ発見や！しかも、前には池か…なかなか自然豊かやなあ…。」

ミナ才は、疲れたため息をだし、キャリーバックをベンチ脇に置き、ゆっくりと座った。

「ああ…疲れた…。播州赤穂駅まで長かったなあ…。」
タコ焼きをほおばりながら独り言を言った。

食べ終わると同時にウトウトと眠ってしまった。何時間が過ぎただろうか…

夢から覚めると、自分の顔を恐る恐る見る、小学生…？いや中学生？の様な風貌の今どきのオカッパの髪型をした美少女が居た。

「わあ！ビックリした！なんだ君は！？」

「そそそ、それはこちらの台詞ですよ（汗）。」

彼女はさらにオドオドして言った。

ミナ才は、寝る前までの事を思い出して、言い放った。

「いや、ここで昼ご飯たべとつたんよ。ここ、公園だろ？別に寝とつたっていいやないか〜！」

「ここは、公園ではありませんよ〜！（汗）聖ミアトル女学院の敷地内ですよ〜！」

「聖ミアトル〜？マジかよ〜？（汗）てか、私が女学院の敷地内に居たら変態と間違われるやないかい〜！」その時、奥の草むらからも音がした。

「ヤバいです〜！（汗）とにかく私について来て下さい〜！」

「ああ、その方が良さそうだな（汗）。」

ミナオは、その小さな美少女の小さな手で手を引っ張られ、その美少女について行った。

途中、草むらを書き分けて行く最中に、遠くに見えていた池のほとりです学生同士がキスしているのを見てしまった！

ミナオの脳内（わ！百合つつつか、同性で…？）

ミナオは呆気にとられたままその美少女に引っ張られて行った。

千代（前書き）

第3話です？

播州赤穂駅をYouTubeで見で、インスパイアしてます？

千代

僕は、呆気にとられたまま僕の手を引つ張って行ったオカッパ美少女の部屋？に連れられた。

「ハアハア…疲れた…。ったく…なんなんだよ。」ミナオは息切れしながら言った。

「ごご、ごめんなさい（汗）。誰かにばれるとマズイと思ったから。」
オカッパ美少女は、泣いていた。泣いていたと言ってもオドオド泣きの方だ。

「泣くなよ。わかったよ。ありがとな！」ミナオはオカッパ美少女の頭を撫でながら言った。

「いえ、ありがとございます（泣）。私でも人の役に立ちました〜！」

「は、はあ…。よかった…。なあ（汗）ありがと。ところで君、名前は？」

「月館つきだて 千代ちよひと申します。聖ミアトル女学院一年花組です！貴方は…？」

「ああ、俺は伊藤ミナオ。まあ、福岡からちよいと旅行に来たといつかそんな感じだな…。てか、君…月館ちゃんは中学生？」

「千代でいいですよ。私もミナオさんと呼びますね。はい。私は世

間的には中学生一年生です。聖ミアトルは中高一貫なので、世間的な高校一年生は四年生と呼ばれております。」

千代は、丁寧に説明してくれた。

「てか、礼儀正しく、丁寧な言葉口調だね…？」

「ミナオは不思議そうに聞いた。」

「はい、ミアトル女学院は格式高い、いわゆるお嬢様学校でありますから。私も幼稚園から通っております。」

千代はテキパキと簡単に説明してくれた。

「なるほどね…。ところで僕はどのように帰れ…？」

「ミナオが言う途中で部屋のドアから」ドンドンドンドンドンドン」と、聞こえた。

二人「！？」（汗）」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9945w/>

木苺パニック！

2011年10月26日03時10分発行